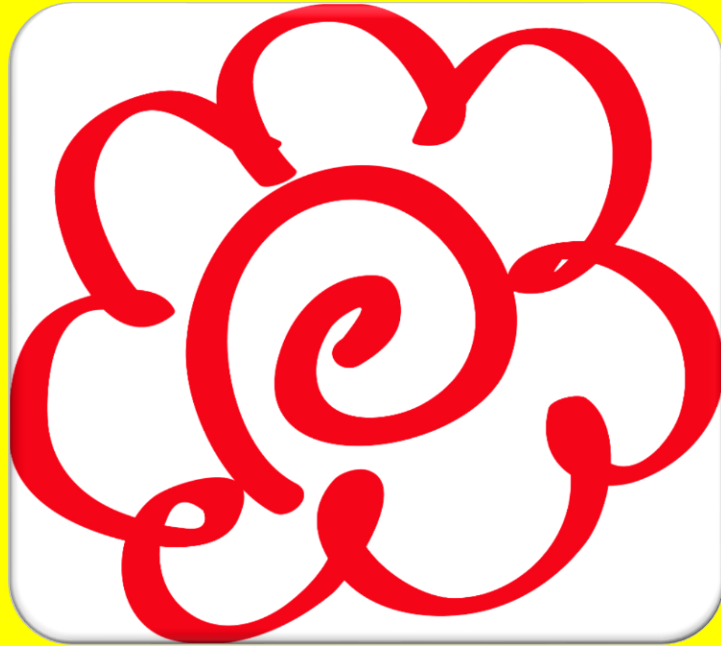


豊南高等学校

Permute



Think Your Workstyle

APP開発担当

熊谷知也

永瀬拓海

池田悠

情報・リサーチ担当

伊藤涼香

榎本千倅

問題 - ブラック部活 -

将来の日本の社会を担う子供たちを育てる役割を大いに果たしているのが「教師」だ。「教師」は子供たちに勉強や社会で生きていく上での大切なことを教えながら、保護者への対応や事務作業に追われる毎日を過ごしている。

働き方改革総合研究所(株)の新田龍さんにインタビューをした際、企業労働者に対して適用される労働基準法は、教員には適用されないということが明らかになった。

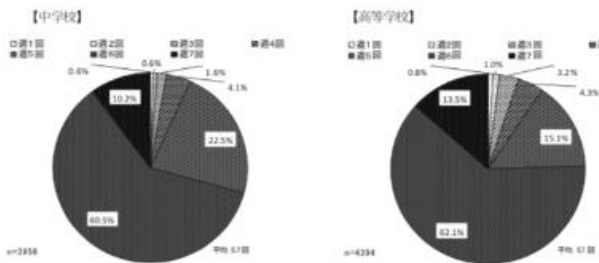


2019年4月に労働基準法の改正及び施行されるほどに企業の労働環境は整えようとしている一方、公立教師には給特法が適用され、「時間外勤務手当及び休日勤務手当は支給しない」という規定がある。そのため、残業に限度がなく、長時間労働の過酷さが増している。



適用される法律	労働基準法	給特法
改正・施工	2019年4月	予定なし
残業	45時間まで/月 残業代支給あり	残業時間について規定なし 残業代支給なし

中でも私たちは、長時間労働、長時間の残業時間の原因の1つである「部活動」に着目した。

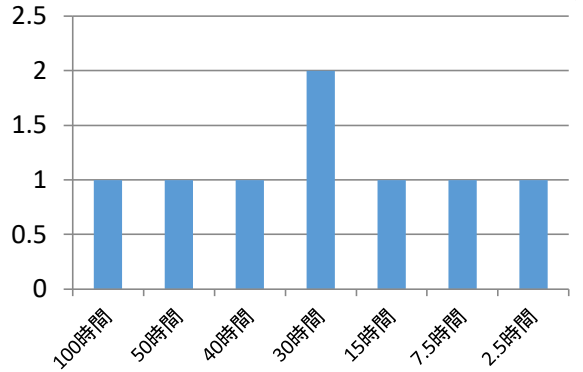


公益財団法人日本体育協会
指導者育成専門委員会調べ

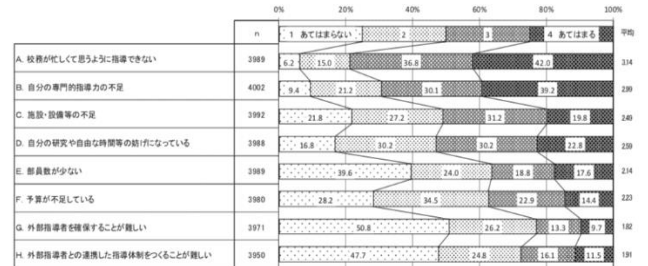
このグラフを見てわかるように、部活動を行う頻度は週5日～7日で92%を占めている。ほぼ毎日のように部活動のために時間を使わなければならないことがわかる。

私たちは部活動の実態をより詳しく知るために、豊南高校の運動部の先生方8名にアンケート調査をした結果、練習メニューを考へることや練習試合を組むことに時間をかけていることが判明し、月に部活動にかけている時間も判明した。

月の部活指導にかかる時間



また、専門外の運動部の顧問を任された場合、知識や経験不足のため、生徒に十分に指導することが出来ずに申し訳ないと感じることがあるという意見も出てきた。部活指導の準備や大会引率等、部活動のために長時間を要していることは教員の負担となっている。



公益財団法人日本体育協会
指導者育成専門委員会調べ

解決策 - 部活メニュー共有APP -

教師の部活動におけるこのような問題はどのようにして解決していけばよいのか。

私たちは部活動の練習メニューをそのスポーツにあまり詳しくない教師でも早く簡単に作成できる良い方法はないかと考え、「部活動の練習メニュー共有アプリ」を開発することにした。

なぜアプリなのかというと、現代のスマートフォン普及率は77%、パソコンの普及率は78%、ととても多くの人たちがスマートフォンやパソコンを利用している。(総務省調べ)そして、私達の最大の目的は教師の負担を減らすことであり、多くの人がいっでも簡単に利用できるアプリが今回の問題解決に適していると思ったからだ。



アプリ開発にあたり、(株)blue IT部プロジェクトリーダーの石部和恵さんにご協力いただいた。

アイコン



アプリ名 はなまる

○「はなまる」3つの機能

①繋がる！SNS型機能

簡単に多くの他の教師と連携できるようになっている。教師は全国の教員が「はなまる」に投稿した部活動の練習メニューを参考にして練習メニューを考案することができる。専門外の部活動指導における不安等の解消につながるだろう。



②手軽なメッセージ機能

教師同士のコミュニケーションがLINEやメールのようにID交換などをする必要がなく、アプリをインストールしている教員同士で手軽につながることができ、練習試合の申し込みなどもしやすくなると考えられる。



③便利なカレンダー機能

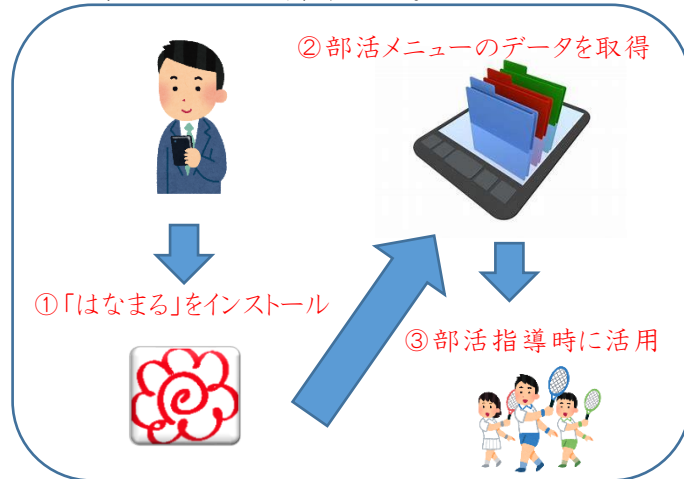
スケジュールやその日行った練習メニューを一目でわかるように管理することが可能になる。



これら3つの機能を最大限に活用することによって、従来の部活動における仕事と比べ、格段に負担は軽くなるはずだ。

資源 - 人・もの・資金 -

アプリインストールのターゲットは運動部の顧問である。その教員は、生徒の指導時のために本アプリを使用するため、生徒も必要な資源である。



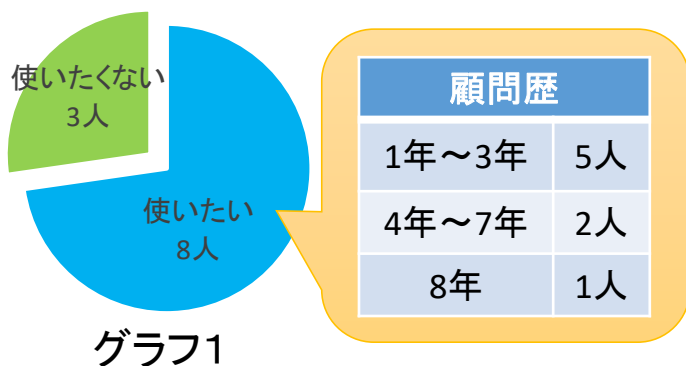
現在、全国の教員数は、中学校が248,694名、高校が231,408名となっており(文部科学省調べ)、アプリ利用の対象が非常に多い。

資金は主にアプリ内の広告収入から得ることができる。広告を出向したい企業に対して、アプリの中のスペースを一部提供し、企業から広告収入を得るといった仕組みを用いる。

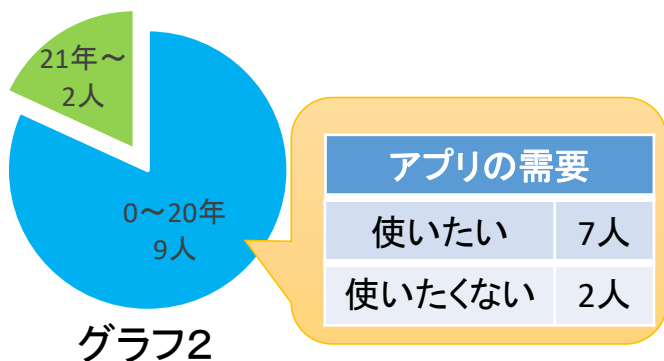
ユーザーが広告をクリックした回数に応じて、あるいはアプリのダウンロード数に応じて広告料が支払われる。

期待 -現場の先生-

私たちは実際にこのアプリを使ってみたいのかというアンケートを豊南高校の先生11人にとった。以下のグラフを見て分かるように、使いたいと回答した先生は8人だった。使いたいと回答した先生の中で顧問歴が一番短い1年～3年の人が8人中5人を占めていることが分かった。その部活動のスポーツ経験年数が短い先生は9人だった。そのうち7人がこのアプリを使いたいと回答した。



顧問歴	
1年～3年	5人
4年～7年	2人
8年	1人



アプリの需要	
使いたい	7人
使いたくない	2人

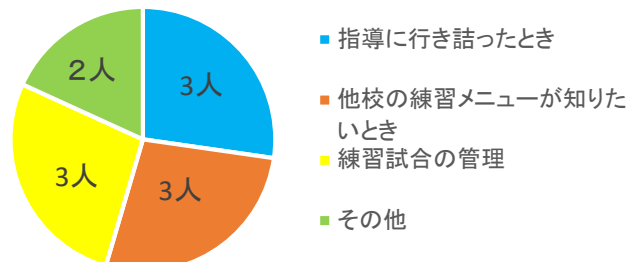
グラフ1と2を見てわかるように、半分以上の先生から使いたいという意見がでた。従って、顧問歴が短い先生や、そのスポーツ経験が浅い先生が使いたいという傾向が見られる。

これに対して、顧問歴が長い先生や、そのスポーツ経験が深い先生からは使いたくないという意見がいくつか出ている。その意見をまとめたのが以下である。

アプリの改善点

- 試合前は自校の情報を漏らしたくないため使えない
- 映像も使いたい
- その練習メニューで注意するポイントも書けるようにしてほしい
- 情報の管理がきちんとできているか心配
- 練習日程表が欲しい
- 「練習試合の相手募集中」などのお知らせを一斉配信する機能が欲しい

私たちが豊南高校の部活の顧問をやっている先生にインタビューした時に、一部の顧問の先生から「練習メニューを考えること」、「練習試合の申し込みや準備をすること」に時間がかかり、大変だという意見を聞いた。実際に私たちが提案したアプリ「はなまる」を使うとしたら、豊南高校の先生は以下のような時に使いたいと回答した。



グラフから見てわかるように、運動部の顧問の先生、特に顧問歴が短い、あるいはない先生にとって非常に助けになるアプリであることが分かった。

従って、アプリ「はなまる」は期待されていると言えるだろう。

SDGs -私たちが達成できること-



学校現場において、年齢による教師間での格差がある。例えば、教師経験が浅い教師ほど経験があるないにかかわらず、活発な部活の顧問にならなければいけなかったり(役割の格差)、時間配分がうまくできず、仕事が多くなってしまったりする(経験上の格差)。

経験が浅い教師の負担になっている事の1つに、部活の指導に時間がとられてしまう事があげられる。

練習メニューを考える・実技指導・練習試合の他校への連絡・引率等々、部活動における仕事が増えてしまう。

この格差を公正にする為に、「はなまる」は、他校の運動部顧問のやり方を知り、効率よく働き、やりがいを感じながら働くことを助長する。



学校現場では他校との繋がりが必要不可欠である。部活においても同じことが言える。このアプリでは、教員同士のつながりを利用して練習メニューのシェアが持続可能になる。

また、この「はなまる」を使うことで教師の負担を減らすことが出来、ほかの仕事に費やす時間を増やす事も出来る。今まで部活動にかけていた時間をほかのことで、有効に使えるだろう。